

てんさい「KWS 8K860」

1 特性の概要

(1) 来歴

てんさい「KWS 8K860」は、ドイツのKWS社が育成した二倍体単胚の一代雑種系統である。KWS社が育成した二倍体単胚雄性不稔種子親系統「MS 144JF1791」と二倍体多胚花粉親系統「PS 144RV6460」を交配して育成した。

平成29年に日本甜菜製糖株式会社が輸入し、平成30年から令和2年に、北見農試、十勝農試、北海道農産協会（日甜、北糖、ホクレン）において輸入品種検定試験を、北見農試、十勝農試、中央農試において各種特性検定試験を行った。また令和元年から令和2年に、全道3か所において現地検定試験を行った。

(2) 特性

「KWS 8K860」は、「カーベ 2K314」と比較して、根重が多く、根中糖分はほぼ並で、糖量が多い。耐病性は、そう根病抵抗性、褐斑病抵抗性が“強”、黒根病抵抗性が“やや強”、根腐病抵抗性が“やや弱”であり、根腐病抵抗性を除いて「カーベ 2K314」並である。

調査年次	平成30年, 令和元, 2年		
	KWS 8K860	アマホマレ (標準品種)	カーベ 2K314 (対照品種)
根重 (t/10a)	8.54 (118)	7.25 (100)	7.80 (108)
根中糖分 (%)	16.03 (95)	16.93 (100)	16.14 (95)
糖量 (kg/10a)	1369 (112)	1227 (100)	1260 (103)
抽苔耐性	強	強	強
そう根病抵抗性	強	弱	強
褐斑病抵抗性	強	中	強
根腐病抵抗性	やや弱	弱	中
黒根病抵抗性	やや強	中	やや強

注1) 根重、根中糖分および糖量は、北見農試、十勝農試および北海道農産協会(3か所)ののべ14か所平均で、括弧内は「アマホマレ」に対する百分比。

2) 特性検定は抽苔耐性(北見農試、令和元、2年)、そう根病抵抗性(北見農試、平成30～令和2年)、褐斑病抵抗性(十勝農試、平成30～令和2年)、根腐病抵抗性(十勝農試、平成30～令和2年)、黒根病抵抗性(中央農試、平成30～令和2年)の成績。

(3) 長所及び短所

長所 1 根重が多く、糖量が多い。

短所 1 根腐病抵抗性が“やや弱”である。

(4) 用途

砂糖原料用

2 候補理由

北海道の農家戸数の減少の中、てんさい作付け農家戸数およびてんさい作付面積も減少傾向にある。一方で、北海道全体でのんさいの総生産量は、農家一戸あたりの作付面積の拡大やてんさい品種の収量性向上により、この十年間、ほぼ一定量を維持している。しかし、今後も農家戸数の減少が進むと推測されるので、てんさい糖の生産量を維持するには、てんさい品種のさらなる収量性の向上が必要である。また、収量性が向上したてんさい品種を導入することで、農家の収益性が向上し、てんさい栽培農家減少の歯止めの一助となると考えられる。

「KWS 8K860」は、「カーベ 2K314」（平成 28 年北海道優良品種認定）より根重、糖量が約 10% 向上している。また、てんさいの重要病害である「そう根病」「褐斑病」「黒根病」に、「カーベ 2K314」と同様に抵抗性を持ち、耐病性に優れる。

以上から、「KWS 8K860」を「カーベ 2K314」の大部分に置き換えて普及させることで、てんさい生産の安定と農家所得の向上に寄与できる。

3 普及

(1) 栽培適地

北海道一円

(2) 普及見込み面積

15,000ha（令和元年作付総面積 56,344ha 26.6%）

(3) 北海道農業試験会議（成績会議）における判定

普及奨励事項

4 その他特記事項

1) 根腐病抵抗性が“やや弱”であるため、適切な防除に努める。

5 参考データ

なし

(写真)

てんさい「KWS 8K860」

(令和2年10月27日撮影 北見農業試験場 直播栽培)

播種日5月8日、畦幅60cm、株間23.8cm



「KWS8K860」



「カーベ 2K314」 (対照品種)



「アマホマレ」 (標準品種)